第2次糸魚川市総合計画の策定にあたって

本市は、平成17年3月19日に能生町、糸魚川市、青海町が合併し、新たな糸魚川市として誕生しました。

合併以降、本市が抱える課題に的確に対応し、より良い「ふるさと糸魚川」を築き、発展させ、次世代に引き継いでいくため、都市像である「翠（みどり）の交流都市　さわやか　すこやか　輝きのまち」の実現に向け、個性あるまちづくりを進めてきました。

この間、本市が有する多様な地域資源や固有の文化などが評価された「ユネスコ世界ジオパーク」認定やヒスイが国の石に選定されましたことは、他の自治体にはない本市の魅力であり、今まさに注目を浴びているところであります。これらの魅力と開業した北陸新幹線を生かして、交流人口の拡大と地域産業の活性化など地域再生をより一層進めることが求められています。

また、本市の最も大きな課題である人口減少は、昭和30年頃から始まっており、以来、常にその課題と向き合い、対応する施策を講じてきましたが、歯止めを掛けるには至らず、今後も減少傾向が続くことが推測されています。人口構成も高齢化が進むだけではなく、少子化の進展により社会保障を支える人口構成バランスが崩れていくことも大きな課題となっています。

このほか、高度経済成長期に集中的に整備されたインフラの維持管理・更新などに多額の財政需要が見込まれるなどの課題も現れてきています。

このような社会経済情勢の変化や新たな市民ニーズに対応するとともに、明日に希望を持ち、安全・安心な暮らしを築いていくため、30年先も持続可能なまちづくりの基本指針として、平成29年度（2017年度）を初年度とする「第2次糸魚川市総合計画」を策定しました。

第2次総合計画では、市民や地域、事業者等と行政が、まちづくりの目標や役割などを共有し、共通理解のもと、共に考え、共に行動する協働の取組により、着実な計画推進を図ってまいりますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

おわりに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提言をいただきました市民の皆様をはじめ、市議会並びに総合計画審議会、各地域審議会の方々に心から感謝申し上げます。

平成28年12月

糸魚川市長　米田　徹

第2次糸魚川市総合計画の改訂にあたって

平成28年12月22日に発生した糸魚川市駅北大火で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

「災害に強いまち」「にぎわいのあるまち」「住み続けられるまち」を目指して、一日も早い復旧・復興を図るとともに、駅北大火の教訓を踏まえた安全・安心なまちづくり、被災地域を含めた中心市街地の再生など、糸魚川市駅北復興まちづくり計画の策定に合わせて、このたび、「第2次糸魚川市総合計画改訂版」を策定いたしました。

平成29年12月

糸魚川市民憲章

わたしたちの糸魚川市は、広大な日本海と姫川の東西にそびえる北アルプスや頸城の山並みに抱かれ、地域性豊かな自然遺産に恵まれた「翠（みどり）」あふれるまちです。

わたしたちは、先人が築き上げてきた尊い歴史と文化を受け継ぎ、輝くあすに向かってさらに躍進し、みんなに愛される住みよいまちをつくるため、ここに市民憲章を定めます。

わたしたちは糸魚川市民です

一　自然の恵みに感謝し
　　美しい環境をつくります

一　笑顔あふれる
　　あたたかい家庭を築きます

一　健康で　生き生きと
　　仕事や学習にはげみます

一　お互いの絆を大切にし
　　思いやりの輪を広げます

一　あすにゆめをもち
　　明るい未来を築きます

（平成20年3月19日制定）

糸魚川市の木・花・鳥・石

市の木　ブナ

ブナは、里山から亜高山帯に至る広い範囲に自生しています。保水力が高いことが大きな特徴で、ブナの周りには、山菜やキノコなどの食糧が豊富であり、さまざまな動植物の共生の場となっています。豊かな自然を象徴する木であり、私たちに自然の恵みを実感させてくれます。

市の花　ササユリ

ササユリは、山地の草原や明るい森林に生育する日本固有のユリで、6月から7月にかけて淡いピンク色の花を咲かせます。芳香の漂う清楚な花で、森の中にひっそりと咲き、飾らぬ素朴な美しさは、わたしたちのくらしにうるおいと安らぎを与えてくれます。

市の鳥　カワセミ

カワセミは、体長17cmほどで、市内全域に一年を通して水辺に生息しています。鮮やかな水色と長いくちばしが特徴で、「空飛ぶ宝石」と呼ばれており、ヒスイ（翡翠）の名は、カワセミの色に由来して名付けられています。

市の石　ヒスイ

当市には、国の天然記念物に指定されているヒスイ産出地（小滝ヒスイ峡・橋立ヒスイ峡）があります。縄文時代からヒスイの加工が始まり、国内各地に伝播いたしました。

また、当市は、世界最古のヒスイ文化発祥の地と言われ、ヒスイと関わりの深い奴奈川姫の伝承地でもあります。